

BigFix Remote Control ターゲット ユーザーズ・ガイド



目次


第 1 章. Remote Control ターゲット ユーザーズ・ガイド	3
Remote Control ターゲットの概要.....	3
ターゲット・アイコンから実行可能なタスク.....	3
ターゲット・インターフェース.....	4
セッションの接続状況の表示.....	5
ターゲット・インターフェースからのセッション・タイプの選択.....	5
チャット領域の表示または非表示.....	5
ファイル転送領域の表示または非表示.....	5
ターゲット・インターフェースから実行可能なアクション.....	6
システム情報の表示.....	7
ヘルプの使用.....	7
セッションのアクションの受け入れ.....	7
アプリケーションの非表示.....	9
実行中のアプリケーションのリモート・コントロール・セッションでのビューにおける非表示.....	9
非表示のアプリケーションのリモート・コントロール・セッションにおけるビューでの再表示.....	10
ブローカーを使用するリモート・コントロール・セッションの開始.....	10
リモート・コントロール・セッションからの切断.....	11
コマンド行を使用してターゲット GUI にアクションを送信する.....	11
監査.....	12
BigFix® Remote Control Target for macOS	13
BigFix® Remote Control Target for macOS の開始.....	13
BigFix® Remote Control Target for macOS のメニュー・バー.....	13
BigFix® Remote Control Target for macOS のツールバー.....	15
ブローカー・セッションに接続するための接続コードの入力.....	16
mac OS デバイスでのセッションからの切断.....	16
Remote Control ターゲット・バージョン V10 で必要な macOS 権限を有効にする.....	16
Remote Control ターゲット・バージョン V10 IF0001 以降で必要な macOS 権限を有効にする.....	18
トラブルシューティング.....	20
プライバシー・モードおよび入力ロック.....	21
Notices.....	23
索引	a

第 1 章. Remote Control ターゲット ユーザーズ・ガイド

本書は、リモート・コントロール・セッションに参加して、他のユーザーが自分のコンピューターに接続して支援を提供できるようにすることを希望するユーザーを対象としています。本書では、ターゲット・ユーザーがリモート・コントロール・セッション中にコントローラー・ユーザーと通信するために使用できるインターフェースの詳細について説明します。また、接続の確立にブローカーを使用して、インターネット経由でセッション要求を受け取る方法とリモート・コントロール・セッションを開始する方法についても詳しく説明します。

Remote Control ターゲットの概要

BigFix® Remote Control ターゲット・ソフトウェアは、リモート・コントロール・セッション中、ターゲット・ユーザーがコントローラー・ユーザーとの通信に使用できるインターフェースを提供します。

ターゲット・ソフトウェアがインストールされ、BigFix® Remote Control ターゲット サービスが実行されているときは、ターゲット・アイコン  が、ターゲット・システムのタスクバーに表示されます。このアイコンを使用してターゲット・インターフェースを開き、リモート・コントロール・セッション中にコントローラー・ユーザーと通信できます。また、接続情報やシステム情報を取得することもできます。

ターゲット・アイコンから実行可能なタスク

Remote Control ターゲット・ソフトウェアがインストールされているときは、タスクバーにターゲット・アイコンが表示されます。

アイコン上にマウスを置く

このアイコンの上にマウス・ポインターを置くと、ターゲットのコンピューター名、IP アドレス、および FIPS の状況を表示できます。

アイコンを右クリックする

このアイコンを右クリックすると、以下のオプションが表示されます。

Remote Control - ターゲットを開く (Open - Target)

このオプションを使用して、ターゲット・インターフェースを表示します。インターフェースについて詳しくは、[ターゲット・インターフェース](#)を参照してください。

情報

このオプションを使用して、現在インストールされているターゲット・ソフトウェアのバージョン番号を表示します。



注: バージョン番号は、HCL ソフトウェア・サポートに接続の問題を報告するときに役立ちます。

オンライン・ヘルプ

このオプションを使用して、Remote Control のオンライン文書にアクセスします。

接続情報

このオプションを使用して、ターゲット・コンピューターの名前と IP アドレスを表示します。

状況をサーバーに報告します

このオプションを使用して、ターゲットをサーバーに接続させ、ターゲットの状況をサーバーに報告させます。

接続ユーザー

このオプションを使用して、コントローラー・ユーザーのユーザー ID と、リモート・コントロール・セッションを確立したコントローラー・システムの IP アドレスおよび MAC アドレスを表示します。



注: このオプションは、リモート・コントロール・セッション中にのみ使用可能です。

切断

このオプションを使用して、ターゲットをリモート・コントロール・セッションから切断します。

システム情報

このオプションを使用して、`sysinfo.txt` ファイルを生成します。このファイルには、ターゲットに関する情報 (コンピューター名、ベンダー、モデル、IP アドレス、実行中のプロセスなど) が格納されています。このファイルは、テキスト・ファイルとして表示されます。

転送フォルダー

このオプションを使用して、サーバーとの間でのファイル転送に使用するフォルダーを開きます。

接続コードの入力

このオプションを使用して、ブローカー経由でセッションを開始するために必要な接続コードを入力します。詳しくは、『[ブローカーを使用するリモート・コントロール・セッションの開始](#)』を参照してください。

アイコンをダブルクリックする

このアイコンをダブルクリックすると、ターゲット・インターフェースが開きます。詳しくは、『[ターゲット・インターフェース](#)』を参照してください。


ターゲット・インターフェース

ターゲット・インターフェースを使用して、リモート・コントロール・セッションに参加し、そのセッションでコントローラー・ユーザーと通信することができます。タスクバーのターゲット・アイコンをダブルクリックすると、ターゲット・インターフェースが開きます。

このインターフェースには、次の機能があります。

- 接続状況『[セッションの接続状況の表示](#)』を参照してください。
- 「セッション・タイプ」プルダウン。『[ターゲット・インターフェースからのセッション・タイプの選択](#)』を参照してください。
- チャット領域の表示/非表示。『[チャット領域の表示または非表示](#)』を参照してください。
- 転送領域の表示/非表示。『[ファイル転送領域の表示または非表示](#)』を参照してください。
- 「アクション」メニュー。『[ターゲット・インターフェースから実行可能なアクション](#)』を参照してください。
- システム情報の表示。『[システム情報の表示](#)』を参照してください。
- 「ヘルプ」メニュー。[ヘルプの使用](#)を参照してください。


セッションの接続状況の表示

リモート・コントロール・セッションの状況を確認するには、接続アイコン 。このアイコンは、セッションが確立されているときに表示され、接続状態になります。進行中のセッションがないときは、使用不可になります。

ターゲット・インターフェースからのセッション・タイプの選択

ターゲット・インターフェースのセッション・リストには、リモート・コントロール・セッション中に選択可能なセッション・タイプが表示されます。コントローラー・ユーザーは、セッションの開始時にセッション・タイプを選択します。セッションが開始すると、このリストからいずれかのセッション・タイプを選択することで、そのセッション・タイプをできます。選択可能なセッション・タイプのオプションは、そのセッションのアクセス許可での設定内容によって決まります。セッション・タイプについて詳しくは、「[BigFix® Remote Control コントローラー・ユーザーズ・ガイド](#)」を参照してください。

チャット領域の表示または非表示


「チャット領域の表示/非表示」アイコン  をクリックすると、チャット・ウィンドウが開き、コントローラーとリアルタイムの通信を行うことができます。チャット・ウィンドウを非表示にするには、このアイコンを再度クリックします。

チャット・ウィンドウが開いたら、ウィンドウに情報を入力して Enter キーを押すことができます。チャット・ウィンドウにテキストが表示され、コントローラー・ユーザーが応答することができます。「アクション」メニューの「[チャット履歴をクリア](#)」を選択すると、ウィンドウからチャットの履歴を削除できます。



注: リモート・コントロール・セッションに設定されたポリシーによっては、チャットが有効になっていない場合、チャット・アイコンが使用不可になります。

ファイル転送領域の表示または非表示

「**転送領域の表示/非表示**」アイコン  をクリックすると、コントローラーとターゲットとの間で転送ファイルを示すフィールドがあるウィンドウを開くことができます。左側にあるアイコンは、転送の方向を示します。進行状況表示バーの色は、実行された転送のタイプを示します。

ターゲットからコントローラーへの転送の場合、左矢印が表示されます。転送が完了すると、ステータス・バーが緑色に変わります。

コントローラーからターゲットへの転送の場合、右矢印が表示されます。転送が完了すると、ステータス・バーが青色に変わります。

ターゲット・インターフェースから実行可能なアクション

「**アクション**」メニュー  を使用して、次のアクションを実行できます。

接続情報

このアクションでは、ターゲット・システムのコンピューター名、IP アドレス・リスト、および FIPS の状況が表示されます。続行するには、「**OK**」をクリックしてください。

状況をサーバーに報告します

このアクションでは、ターゲットをサーバーに接続させ、ターゲットの状況を報告します。「**Managed**」ターゲット・プロパティが「No」に設定されている場合、このアクションは使用できません。

接続ユーザー

コントローラー・ユーザーのユーザー ID と、リモート・コントロール・セッションを開始したコントローラー・システムの IP アドレスおよび MAC アドレスを表示します。続行するには、「**OK**」をクリックしてください。



注: このオプションは、リモート・コントロール・セッション中にのみ使用可能です。

転送フォルダー

ファイル転送ディレクトリーの内容を表示します。コントローラーからターゲットへのすべての転送ファイルが、ディレクトリーに表示されます。

コントローラーへファイルを送信

ターゲット・システム上でファイルを選択し、そのファイルをコントローラー・システムに転送します。ファイルの転送について詳しくは、*BigFix® Remote Control* コントローラー・ユーザーズ・ガイドを参照してください。

チャット履歴をクリア

ターゲット・インターフェースのチャット履歴領域を消去します。


非表示 Windows™

ターゲット上で実行中のアプリケーションのうち、セッションが確立される前に非表示であったものをすべて表示します。実行中のアプリケーションを非表示にする方法については、[アプリケーションの非表示](#)を参照してください。


接続コードの入力

ブローカー経由でセッションを開始するのに必要な接続コードを入力します。詳しくは、『[ブローカーを使用するリモート・コントロール・セッションの開始](#)』を参照してください。

システム情報の表示

ターゲットのシステム情報を表示するには、「**システム情報を取得**」アイコン  をクリックします。このアクションにより、`sysinfo.txt` という名前のファイルが生成されます。このファイルには、ターゲットに関する情報 (コンピューター名、ベンダー、モデル、IP アドレス、および実行中のプロセスなど) が格納されています。このファイルは、テキスト・ファイルとして表示され、電子メールでコントローラーに送信して、トラブルシューティングに役立てることができます。

ヘルプの使用

ヘルプを表示するには、「**ヘルプ**」メニューをクリックし 、次のいずれかのオプションを選択します。

情報

このオプションを使用して、現在インストールされているターゲット・ソフトウェアのバージョン番号を表示します。



注: バージョン番号は、接続の問題を報告するときに役立ちます。

オンライン・ヘルプ

このオプションを使用すると、HCL Knowledge Center に移動して、Remote Control の資料を表示できます。

リモート・コントロール・セッションのアクションの受け入れ

コントローラー・ユーザーによってリモート・コントロール・セッションが要求された場合、または特定のアクションが実行される場合に、そのアクションを受け入れるかどうかの確認がターゲット・ユーザーに求められることがあります。受け入れの確認が要求されるのは、ユーザー確認セッション・ポリシーが有効になっていて、そのセッションに対して yes に設定されている場合です。ターゲット・ユーザー確認を要求できるのは、コントローラー・ユーザーによって次のアクションが実行されるときです。

- リモート・コントロール・セッションの開始
- リモート・コントロール・セッション中のセッション・タイプの変更
- ターゲットのシステム情報の要求
- ターゲットとの間でのファイルの転送

- リモート・コントロール・セッションのローカル記録の作成
- 1つのセッションに複数の参加者を許可するための要求

確認が必要なときに、確認ウィンドウで以下のオプションを選択することができます。選択できるオプションは、受け入れ対象のアクションに応じて異なります。

受け入れる

要求を受け入れてコントローラー・ユーザーによるアクションの実行を許可するには、「**同意する**」をクリックします。

拒否

要求を拒否してコントローラー・ユーザーによるアクションの実行を許可しないようにするには、「**拒否**」をクリックします。

セッション・タイプ

セッションの開始に対してユーザー確認が有効になっているときに、コントローラー・ユーザーがご使用のシステムをアクティブ・モードで制御しないようにする場合は、異なるセッション・タイプを選択します。

ガイダンス

コントローラー・ユーザーはご使用のシステムをガイダンス・モードで表示できますが、リモート・マウスもキーボードも制御できません。このセッション・タイプの詳細については、「*BigFix® Remote Control* コントローラー・ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

モニター

コントローラー・ユーザーはご使用のシステムをモニター・モードで表示できますが、リモート・マウスもキーボードも制御できません。このセッション・タイプの詳細については、「*BigFix® Remote Control* コントローラー・ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

チャット

コントローラー・ユーザーにご使用のシステムの表示を許可することなく、コントローラー・ユーザーとチャットできます。

アプリケーションを非表示 (Hide applications)

ターゲットで実行中のアプリケーションのうち、コントローラー・ユーザーに表示しないようにするものをすべてを非表示にする場合は、「**アプリケーションを非表示**」をクリックします。アプリケーションを非表示にする方法の詳細については、[アプリケーションの非表示](#)を参照してください。



注: 確認要求の受信時には、同意または拒否を決定するための時間として事前定義された秒数が与えられます。間に合うように同意しなかった場合、要求の結果は次のプロパティに設定された値によって決定されます。

受け入れタイムアウト時のアクション



BigFix® Remote Control サーバー からセッションが開始された場合。

AcceptanceProceed

コントローラーとターゲットの間で直接セッションが開始された場合。

この両方のプロパティが `proceed` に設定されている場合、要求されたアクションはユーザー確認なしで完了します。両方が `Abort` に設定されている場合、要求されたアクションは完了せず、コントローラー・システム上にメッセージが表示されます。リモート・コントロール・セッションのポリシーを導出する方法について詳しくは、「*BigFix® Remote Control* 管理者ガイド」を参照してください。

アプリケーションの非表示

リモート・コントロール・セッションを受け入れる前に、コントローラー・ユーザーに表示しないようにするアプリケーションをシステム上で非表示にできます。

実行中のアプリケーションのリモート・コントロール・セッションでのビューにおける非表示

リモート・コントロール・セッションが要求されたときに、ターゲットで実行中のアプリケーションのうち、コントローラー・ユーザーに表示しないようにするものすべてを非表示にすることができます。このオプションは、「**着信接続におけるユーザーの受け入れを使用可能にする**」サーバー・ポリシーおよび「**ウィンドウの非表示**」サーバー・ポリシーが有効（管理対象セッション）であるか、「**ConfirmTakeOver**」ターゲット・プロパティおよび「**HideWindows**」ターゲット・プロパティが「はい」に設定されている（ピアツーピア・セッション）場合に、確認ウィンドウで選択できます。このオプションは、セッションが要求されたときにユーザー確認ウィンドウに表示されます。

アプリケーションを非表示にするには、以下の手順を実行します。

1. ユーザー確認ウィンドウで、「アプリケーションを非表示 (Hide Applications)」および「同意する」をクリックします。
「表示/非表示」ウィンドウが開き、ターゲット上で実行中のすべてのアプリケーションが一覧表示されます。
2. コントローラー・ユーザーから見えなくするアプリケーションを選択します。
3. 「OK」をクリックします。

選択したアプリケーションは、セッションの確立時にターゲット・ウィンドウおよびコントローラー・ウィンドウに表示されなくなります。



注:

- この手順は、そのセッションのターゲット・ユーザーのみが実行できます。
- 「表示/非表示」ウィンドウで「キャンセル」をクリックすると、選択したアプリケーションはセッションの確立時に非表示になりません。

非表示のアプリケーションのリモート・コントロール・セッションにおけるビューでの再表示

リモート・コントロール・セッション中に、非表示になっていた実行中のアプリケーションをコントローラー・ユーザーに表示することが必要になった場合、ターゲット・ユーザーはこうしたアプリケーションを再度表示させることができます。

非表示のアプリケーションを再度表示させるには、以下の手順を実行します。

1. Remote Control ターゲット・アイコンをダブルクリックして、ターゲット・ウィンドウのツールバーを表示させます。
2. 「アクション」メニューから、「非表示のウィンドウ」を選択します。
3. 確認ウィンドウで、「同意する」をクリックします。
4. 「アプリケーションの表示/非表示 (Show/Hide applications)」ウィンドウで、再度ビューに表示させるアプリケーションを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

これまで非表示にしていたアプリケーションが、コントローラー・ウィンドウに表示されるようになります。

ブローカーを使用するリモート・コントロール・セッションの開始

システムがインターネット上にあるとき、コントローラー・ユーザーは、ブローカーを使用してご使用のシステムに接続するリモート・コントロール・セッションを開始できます。このセッションに接続するには、接続コードを入力する必要があります。

ブローカーを使用するリモート・コントロール・セッションを開始するには、リモート・コントロール・セッションを開始するコントローラー・ユーザーからセッション接続コードを取得します。

コントローラー・ユーザーがリモート・コントロール・セッションを開始するときは、Remote Control サーバー UI を使用します。ブローカーは、必要な接続を確立するために使用されます。このリモート・コントロール・セッションに接続するには、コントローラー・ユーザーから取得した接続コードが必要です。接続コードを使用してリモート・コントロール・セッションに接続するには、次の手順を実行します。

ターゲットのオペレーティング・システム用の手順に従って、ターゲット・コンピューターで接続コードを入力します。



注: ターゲットが新規にインストールされたものである場合、ターゲットが最初にサーバーに接続するか、ターゲットに ServerURL プロパティと BrokerList プロパティを手動で入力するまで、「接続コードの入力」オプションは使用できません。

Windows 上のターゲットの場合

以下から適切な方法を選択して、接続コードを入力します。

- ターゲットの「通知」アイコンを右クリックし、「接続コードの入力」を選択します。
- ターゲット UI を開いて、「アクション」メニュー > 「接続コードの入力」を選択します。

接続コードを入力し、「接続」をクリックします。

Linux 上のターゲット

- ターゲット UI を開いて、「アクション」メニュー > 「接続コードの入力」を選択します。
- 接続コードを入力し、「OK」をクリックします。

または、GUI コマンドラインを使用してこれを行うこともできます。詳しくは、[コマンド行を使用してターゲット GUI にアクションを送信する](#)を参照してください。

ブローカーに正常に接続され、サーバーによって接続コードが検証され、セッションが認証されると、自動的にリモート・コントロール・セッションが開始します。セッション・ポリシーで「着信接続におけるユーザーの受け入れを使用可能にする」が有効になっている場合は、ターゲット・ユーザーがセッション要求の受け入れまたは拒否を選択できます。セッションの開始後、使用可能になる機能は、そのセッションに対して設定されているサーバー・ポリシーおよびアクセス許可によって異なります。

ブローカーと接続できない場合、接続コードを検証できない場合、またはターゲットがサーバーに認証されない場合は、「再試行」オプションを使用します。「再試行」をクリックすると、「接続コード」ウィンドウが表示されて、接続コードを再入力できます。「キャンセル」をクリックすると、リモート・コントロール・セッションは確立されません。

リモート・コントロール・セッションからの切断

リモート・コントロール・セッションを開始するときに、次の方法でセッションを切断することができます。

- キーボードの「PAUSE/BREAK」を押します。

- 「接続」アイコン  をクリックします

コントローラーの接続が切断され、キャンセルを示すメッセージが表示されます。

コマンド行を使用してターゲット GUI にアクションを送信する

これで、コマンド行を使用してターゲット GUI にアクションを送信できます。

- `trc_gui` コマンド・ライン・インターフェースは、空でない `BrokerList` プロパティを持つ管理対象モードのターゲットでのみ使用できます。
- コマンドを発行するには、現在の作業ディレクトリが、`trc_gui` 実行可能ファイルが格納されているターゲットのインストール・フォルダーである必要があります。

`trc_gui` コマンド・ライン・インターフェースを使用して、ターゲット GUI に以下のアクションを送信します。

- `trc_gui --show-main-ui` このコマンドは、メイン・ターゲット GUI を強制的にフォアグラウンドで表示します。
- `trc_gui --show-cc-dialog` - (Windows のみ) このコマンドは、接続コード・ダイアログを強制的にフォアグラウンドで表示します。
- `trc_gui --show-cc-dialog=xxxxxx` - (Windows のみ) このコマンドは、接続コード・ダイアログを強制的にフォアグラウンドに表示し、指定された xxxxxx コードをあらかじめ入力します。
- `trc_gui --connect-with-cc=xxxxxx` - このコマンドは、指定された xxxxxx コードを使用してターゲットのブローカーへの接続試行を開始します。



注:

- `trc_gui` コマンド・ライン・インターフェースは、デフォルトで有効になっています。プロパティの **DisableGUI_CLI** = Yes を設定して無効にすることができます。

監査

セッションに対して **AuditToSystem** ポリシーが有効になっている場合は、リモート・コントロール・セッション・イベントが監査目的で保存されます。

Linux のターゲット・コンピューターでは **messages** ログ・ファイル、Windows ターゲットではアプリケーション・イベント・ログを使用できます。

Windows のアプリケーション・イベント・ビューアーにアクセスするには、「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「イベント ビューアー」 > 「アプリケーション」をクリックします。リストが表示されます。**Remote Control - ターゲット**を選択します。右クリックして、「プロパティ」を選択します。「情報のプロパティ」ウィンドウが開きます。

Remote Control - ターゲットを選択します。

以下の情報が表示されます。

- 引き継ぎの日付
- 引き継ぎの時刻
- 引き継がれるコンピューター
- 引き継ぎを開始する IP アドレス
- MAC アドレス
- 説明セッション

オンデマンド・ターゲットを使用している場合、監査ログはターゲット上のテキスト・ファイルに書き込まれます。`trcaudit_date_time.log` ファイルが作成されます。`date_time` はセッションが発生した日時です。例えば、`trcaudit_20130805_132527.log` です。このファイルは、現在ログオンしているユーザーのホーム・ディレクトリーに作成されます。

BigFix Remote Control Target for macOS

Remote Control V9.1.4 では、macOS デバイスを使用しているターゲット・ユーザーのサポートが導入されています。

BigFix® Remote Control Target for macOS をインストールしてアプリケーションを開始すると、ターゲット状況アイコンがメニュー・バーに表示され、Remote Control ターゲット・アイコンが Dock に表示されます。

現在、BigFix® Remote Control Target for macOS は、Remote Control サーバーに管理されないセッションに参加できます。

コントローラーがリモート・コントロール・セッションでコンピューターに接続されると、状況アイコンが最大コントラストで表示されます。リモート・コントロール・セッション中でない場合は、このアイコンは低コントラストで表示されます。

BigFix® Remote Control Target for macOS の開始

BigFix® Remote Control Target for macOS をインストールした後、Remote Control Target アプリケーションを開始します。

アプリケーションを開始するには、以下の手順を実行します。

- 1. 「移動」 > 「アプリケーション」をクリックします。
- 2. Remote Control Target アイコンをダブルクリックします。

ターゲットの状況アイコンが上部メニュー・バーに表示され、Remote Control ターゲット・アイコンがドックに表示されます。

BigFix® Remote Control Target for macOS のメニュー・バー

ドックの Remote Control ターゲット・アイコンをクリックすると、メニュー・バーに以下のメニュー・オプションが表示されます。


 **注:** 一部のオプションについては、メニュー・バーの右側にある状況アイコンをクリックして選択することもできます。また、ドックの Remote Control ターゲット・アイコンを右クリックしてこれらを選択することもできます。

表 1. BigFix® Remote Control Target for macOS のメニュー・バーで選択可能なオプション

メニュー	メニュー・オプション	説明
Remote Control	Remote Control	このオプションを選択すると、現在インストールされているターゲット・ソフトウェアのバージョン番号が表示されます。

表 1. BigFix® Remote Control Target for macOS のメニュー・バーで選択可能なオプション (続く)


メニュー	メニュー・オプション	説明
ターゲット	ターゲットの概要	 注: バージョン番号は、HCL ソフトウェア・サポートに接続の問題を報告するときに役立ちます。
	Remote Control ターゲットの終了	このオプションを選択すると、Remote Control ターゲット・アプリケーションが停止します。
セッション	アクティブ・モード	このオプションを選択すると、セッションがアクティブ・モードに変更されます。コントローラー・ユーザーはご使用のシステムの完全なリモート・コントロールを持ちます。コントローラー・ユーザーは画面を表示することも、リモート・マウスとキーボードを制御することも可能です。
	モニター・モード	このオプションを選択すると、セッションがモニター・モードに変更されます。コントローラー・ユーザーは画面を表示してアクティビティーをモニターできます。コントローラー・ユーザーはマウスとキーボードの制御はできません。
	切断	このオプションを選択すると、ターゲットがリモート・コントロール・セッションから切断されます。
アクション	接続情報	このオプションを選択すると、ターゲット・コンピューターの名前と IP アドレスが表示されます。
	接続ユーザー	このオプションを選択すると、コントローラー・ユーザーのユーザー ID と、リモート・コントロール・セッションを確立したコントローラー・システムの IP アドレスおよび MAC アドレスが表示されます。
	転送フォルダー	このオプションを選択すると、リモート・コントロール・セッション中にコントローラーから転送されるファイルが格納されたフォルダーが開きます。このフォルダーは「Finder」ウィンドウで開きます。
	コントローラーへファイルを送信	ターゲット・システム上でファイルを選択し、そのファイルをコントローラー・システムに転送します。
	接続コードの入力	ブローカー・セッションに接続するための接続コードを入力します。

表 1. BigFix® Remote Control Target for macOS のメニュー・バーで選択可能なオプション (続く)

メニュー	メニュー・オプション	説明
ヘルプ	オンライン・ヘルプ	このオプションを選択すると、HCL Knowledge Center に移動して、Remote Control の資料を確認できます。

BigFix® Remote Control Target for macOS のツールバー

BigFix® Remote Control Target for macOS では浮動ツールバーを使用できます。このツールバーではさまざまなオプションを選択できます。例えば、セッションとの接続を切断するオプション、セッション・モードを切り替えるオプション、コントローラーにファイルを送信するオプションなどを選択できます。

リモート・コントロール・セッション中は、他のアプリケーション・ウィンドウの前にツールバーが開き、表示されます。ツールバーは閉じたり最小化したりすることができます。セッションの開始前からツールバーを開いていた場合を除いて、セッションが終了するとツールバーは閉じます。リモート・コントロール・セッション中でない場合は、状況メニューまたはドック・アイコン・メニューの「リモート・コントロール・ターゲットを開く」オプションを使用して、ツールバーを開くことができます。

ツールバーには以下のオプションが含まれます。

切断

このオプションをクリックすると、セッションとの接続が切断されます。

セッション・モード

クリックして、セッション・モードを選択します。リモート・コントロール・セッション中でない場合は、セッション・モード・リストはブランクになります。

アクション

「アクション」メニューには以下のオプションが含まれます。オプションの詳細については、[BigFix Remote Control Target for macOS のメニュー・バー](#)を参照してください。

- 接続情報
- 接続ユーザー
- 転送フォルダー
- コントローラーへファイルを送信
- 接続コードの入力

ヘルプ

「ヘルプ」メニューには以下のオプションが含まれます。オプションの詳細については、[BigFix Remote Control Target for macOS のメニュー・バー](#)を参照してください。

- 製品情報
- オンライン・ヘルプ

ブローカー・セッションに接続するための接続コードの入力

BigFix® Remote Control Target for macOS は、接続の確立にブローカーを使用するリモート・コントロール・セッションに参加できます。以下の方法を使用して、セッションに接続するための接続コードを入力します。

リモート・コントロール・セッションを開始するコントローラー・ユーザーからセッション接続コードを取得します。ブローカーを使用して接続するセッションの詳細については、[ブローカーを使用するリモート・コントロール・セッションの開始](#)を参照してください。

BigFix® Remote Control Target for macOS で接続コードを入力するには、複数の方法があります。以下の手順を実行して接続コードを入力します。

1. 接続コードの入力方法を選択します。
 - メニュー・バーの右側にある状況アイコンをクリックします。「**接続コードの入力**」を選択します。
 - ドックのアプリケーション・アイコンを右クリックします。「**接続コードの入力**」を選択します。
 - Remote Control ターゲット・メニューが表示されている場合、「**アクション**」 > 「**接続コードの入力**」を選択します。
 - 浮動ツールバーが表示されている場合、「**アクション**」 > 「**接続コードの入力**」を選択します。
2. 接続コードを入力し、「**接続**」をクリックします。

mac OS デバイスでのセッションからの切断

コントローラーがリモート・コントロール・セッションでご使用のコンピューターに接続されている場合、以下の方法で接続を切断できます。

• 状況アイコン

メニュー・バーの「**ターゲット状況**」アイコンをクリックして、「**切断**」を選択します。

• ドック・アイコン

ドックの**Remote Controlターゲット**アイコンをクリックし、「**切断**」を選択します。

• メニュー・バー

1. ドックの**Remote Controlターゲット**アイコンをクリックします。
2. メニュー・バーで「**セッション**」 > 「**切断**」を選択します。

Remote Control ターゲット・バージョン V10 で必要な macOS 権限を有効にする


セッションが初めて確立されたときに、画面を表示して macOS ターゲット/オンデマンド・ターゲットを制御するには、アクセシビリティおよび画面記録の許可を有効にします。

macOS でターゲット・アプリケーションまたはオンデマンド・ターゲット・アプリケーションを初めて起動した後、オペレーティング・システムは、最初にアクセシビリティ許可を求め、次に画面記録許可を求めます。

**注:**

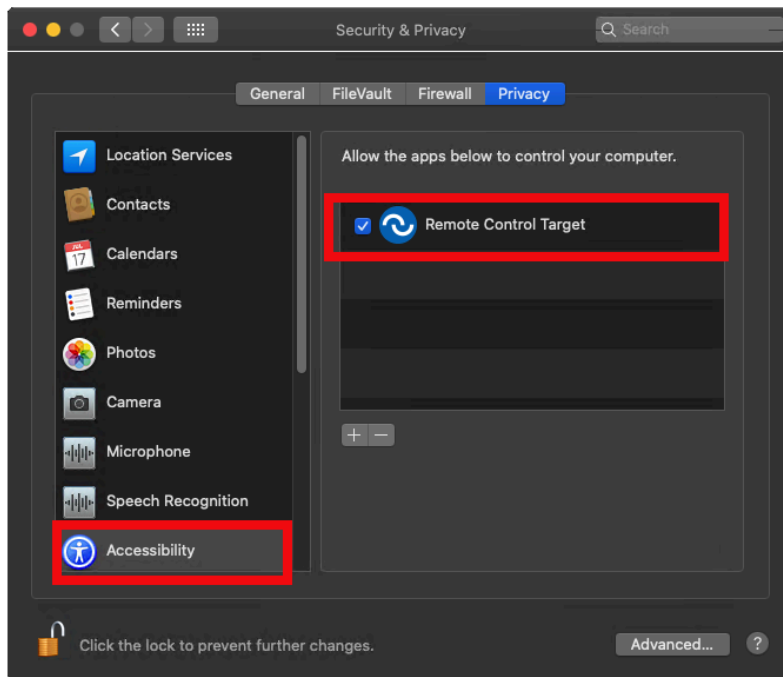
- ターゲット・コンピューターが macOS 10.14 Mojave を実行している場合、アクセシビリティ許可のみが要求されます。
- 必要な許可を拒否した場合、コントローラー画面にはリモート・ターゲット画面が表示されず、リモート・ターゲットを制御することはできません。

必要な許可を付与するには、以下のようにします。

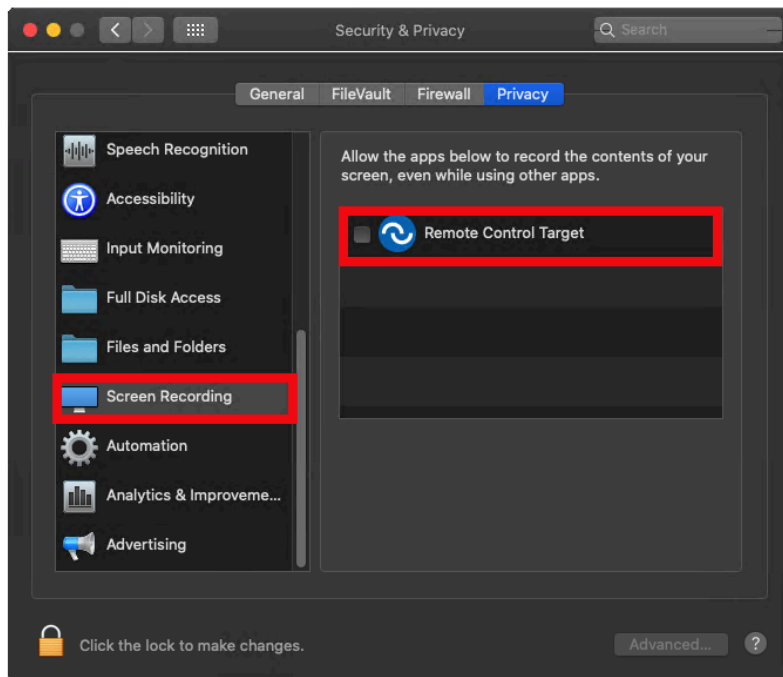
1. アクセシビリティ許可を付与するようにプロンプトが出されたら、「システム環境設定を開く」をクリックするか、手動で「システム環境設定」を開き、「セキュリティとプライバシー」>「プライバシー」タブ>「アクセシビリティ」に移動します。
2. ロック  アイコンをクリックして、設定の変更を許可するための資格情報を入力します。

**注:** この許可には管理者権限が必要です。

3. 「アクセシビリティ」セクションのチェック・ボックスを有効にします。



4. 画面記録許可を付与するようにプロンプトが出されたら、「システム環境設定を開く」をクリックするか、手動で「システム環境設定」を開き、「セキュリティとプライバシー」>「プライバシー」タブ>「画面記録」に移動します。
5. 「画面記録」セクションのチェック・ボックスを有効にします。



6. 確認のポップアップで、「**後で**」をクリックします。これで、アプリケーションを使用する準備ができました。

必要な権限が付与された後、リモート画面を表示してターゲットを制御できます。



注: Target または On-Demand Target 10.0.0.0029 以前を実行している場合は、すべての権限付与の後、アプリケーションを一度再起動する必要があります。

トラブルシューティングの情報については、[macOS のコントローラーからターゲット画面が表示されない、または入力が機能しない](#)を参照してください。

Remote Control ターゲット・バージョン V10 IF0001 以降に必要な macOS 権限を有効にする

セッションが初めて確立されたときに、画面を表示して macOS ターゲット/オンデマンド・ターゲットを制御するには、アクセシビリティおよび画面記録の許可を有効にします。

macOS でターゲット・アプリケーションまたはオンデマンド・ターゲット・アプリケーションを初めて起動した後、オペレーティング・システムは、最初にアクセシビリティ許可を求め、次に画面記録許可を求めます。




注:



- ターゲット・コンピューターが macOS 10.14 Mojave を実行している場合、アクセシビリティ許可の
みが要求されます。
- 必要な許可を拒否した場合、コントローラー画面にはリモート・ターゲット画面が表示されず、リ
モート・ターゲットを制御することはできません。

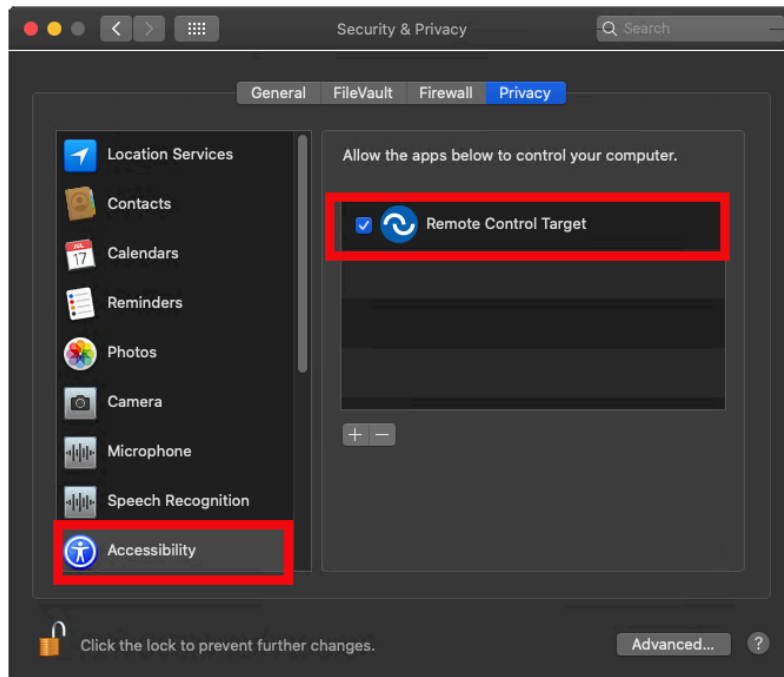
必要な許可を付与するには、以下のようにします。

1. ユーザー補助アクセスを許可するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、「**システム環境設定を開く**」をクリックします。
2. ロック  アイコンをクリックして、設定の変更を許可するための資格情報を入力します。

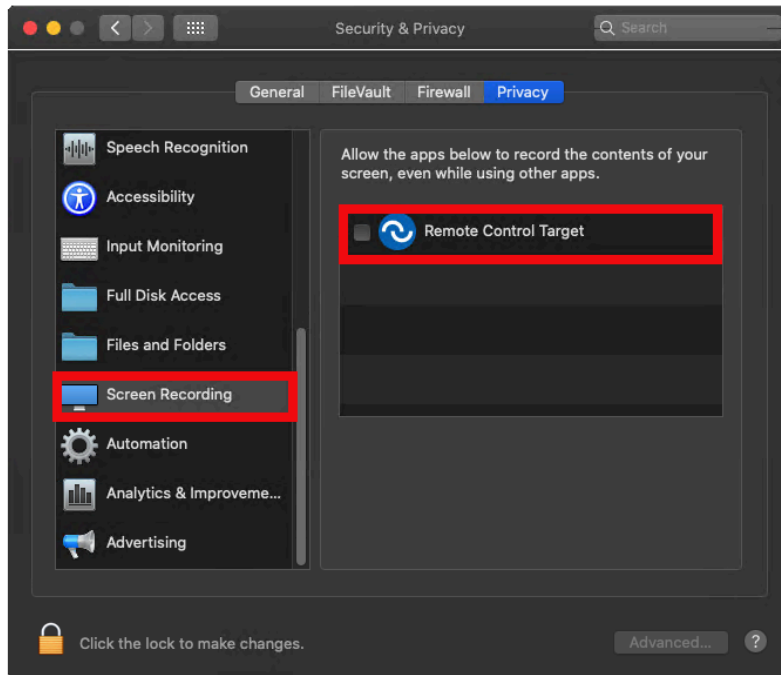


注: この許可には管理者権限が必要です。

3. 「**アクセシビリティ**」セクションのチェック・ボックスを有効にします。



4. 「**セキュリティとプライバシー**」 > 「**プライバシー**」タブ > 「**画面記録**」に移動し、「**画面記録**」セクションのチェックボックスを有効にします。



5. 確認のポップアップで、「後で」をクリックします。

リモート画面を表示してターゲットを制御することができます。

トラブルシューティングの情報については、[macOS のコントローラーからターゲット画面が表示されない、または入力が機能しない](#)を参照してください。

トラブルシューティング

この章は、Remote Control ターゲット・プログラムの使用中に発生する問題をユーザーが解決する際に役立ちます。リモート・コントロール・セッション中に発生する可能性があるエラー・メッセージは、*BigFix® Remote Control* コンソール・ユーザー・ガイドに記載されています。

関連情報

[macOS のコントローラーからターゲット画面が表示されない、または入力が機能しない](#)

macOS のコントローラーからターゲット画面が表示されない、または入力が機能しない

リモート・コントロール・ターゲットまたはオンデマンド・ターゲットが正しく機能できるよう、macOS 許可をリセットします。

- Remote Control ターゲット・アプリケーションを使用している場合は、閉じます。



注: Remote Control オンデマンド・ターゲット・アプリケーションを閉じると、セッション終了後にアプリケーションがディスクから自動的に削除され、システムがバンドル ID を認識しないため、許可をリセットできません。

- Remote Control オンデマンド・ターゲット・アプリケーションを使用している場合は、開いたままにします。

ターゲットのリモート画面がコントローラーに表示されない場合、またはコントローラーからリモート・ターゲットを制御できない場合 (マウス・ポインターの代わりに十字が表示される)、以下を実行します。

- OS のスリープ・ポリシーが原因で問題が発生しているかどうかを確認します。この場合、詳細については、「[画面がロックされた後の mac OS ターゲットをコントロールする](#)」を参照してください。
- [Remote Control ターゲット・バージョン V10 で必要な macOS 権限を有効にする](#) の説明に従って、必要な許可が有効になっているかどうかを確認します。

許可が有効になっていて、まだ同じ問題が発生する場合 (特にバージョン 9.1.4.xxxx からバージョン 10.0.0.xxxx にアップグレードした場合) は、以下のステップを実行します。

1. **システム設定**アプリケーションを閉じます。
2. **端末**アプリケーションを開きます。
3. 以下のコマンドを実行します。 `sudo tccutil reset All com.bigfix.remotecontrol.target` または `sudo tccutil reset All com.bigfix.remotecontrol.odt`
4. コンピューターを再起動します。
5. **リモート・コントロール・ターゲット・アプリケーション**または**リモート・コントロール・オンデマンド・ターゲット・アプリケーション**を再度開きます。
6. [Remote Control ターゲット・バージョン V10 で必要な macOS 権限を有効にする](#) の説明に従って、許可を再度有効にします。

プライバシー・モードおよび入力ロック

プライバシー・モードを有効にして、リモート・コントロール・ターゲットで画面の内容を非表示にします。

アクティブなリモート・セッションでは、リモート・コントロールのコントローラー・ユーザーは「**プライバシー・モード**」を有効にして、リモート・コントロール・ターゲットの画面の内容を非表示にすることができます。これにより、コントローラー・ユーザーは、操作中にターゲット・ユーザーに画面の内容を表示せずに、リモート・ターゲットを制御することができます。コントローラーのアクション・メニューで「**プライバシー・モード**」が選択されている場合、コントローラーがリモート・ターゲット画面を表示している間、ターゲット画面にイメージが表示されます。



注: この機能は現在、Windows を実行しているターゲットおよびオンデマンド・ターゲットでのみサポートされています。

画面をカバーするために使用されるビットマップをカスタマイズするには、ターゲットのインストール・フォルダーの下にある **privacy.bmp** イメージを置き換えます。

- 単一画面のターゲットの場合、privacy.bmp のディメンションはターゲット画面の解像度を超えることはできません。
- 複数の画面を持つターゲットの場合:
 - オプション 1: privacy.bmp のディメンションは、最小解像度でもターゲット画面の解像度を超えています。この場合、イメージの解像度は、以下のプロパティを考慮する必要があります。
 - **Width** = すべての画面幅の合計
 - **Height** = 最高の画面高さ

例: screen1(1920x1080)、screen2(1920x1200)、screen3(1280x1024)。指定されたイメージの解像度は、正確に 5120x1200 でなければなりません。



注: プライバシー・モードが有効になっている場合、画面は常に水平方向のスタック (左から右) にあると想定されます。

- オプション 2: privacy.bmp のディメンションは、最小解像度でターゲット画面の解像度を超えていません。この場合、現在制御されている画面は、privacy.bmp イメージでカバーされますが、その他の画面はフルスクリーンのブラック・イメージによってカバーされます。

例: screen1(1920x1080)、screen2(1920x1200)、screen3(1280x1024)。指定されたイメージ解像度は 1280x1024 以下でなければなりません。

プライバシー・モードが有効になっている場合、「**ターゲットの入力をロック**」エントリが自動的に選択され、コントローラー上で使用可能になります。これにより、ターゲット・マシンにアクセス権を持つ他のユーザーはこれを制御できなくなります。

ピアツーピア・セッションでは、以下のプロパティを使用して、プライバシー機能と入力ロック機能の動作をカスタマイズすることができます。

セッション中	セッション開始時
AllowPrivacy	EnablePrivacy
AllowInputLock	EnableInputLock

詳細については、「[ターゲットの構成で設定可能なプロパティ](#)」を参照してください。

管理対象セッションでは、サーバーで以下のポリシーを使用して、プライバシー機能と入力ロック機能の動作をカスタマイズすることができます。

セッション中	セッション開始時
画面を表示可能にして入力ロックを許可 (Allow input lock with visible screen)	ターゲットのロックを設定

セッション中	セッション開始時
AllowInputLock	ロックされたターゲットでの画面の表示 (Display screen on locked target)

詳細については、「[サーバー・セッション・ポリシー](#)」を参照してください。

Notices

This information was developed for products and services offered in the US.

HCL may not offer the products, services, or features discussed in this document in other countries. Consult your local HCL representative for information on the products and services currently available in your area. Any reference to an HCL product, program, or service is not intended to state or imply that only that HCL product, program, or service may be used. Any functionally equivalent product, program, or service that does not infringe any HCL intellectual property right may be used instead. However, it is the user's responsibility to evaluate and verify the operation of any non-HCL product, program, or service.

HCL may have patents or pending patent applications covering subject matter described in this document. The furnishing of this document does not grant you any license to these patents. You can send license inquiries, in writing, to:

HCL

330 Potrero Ave.

Sunnyvale, CA 94085

USA

Attention: Office of the General Counsel

For license inquiries regarding double-byte character set (DBCS) information, contact the HCL Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

HCL

330 Potrero Ave.

Sunnyvale, CA 94085

USA

Attention: Office of the General Counsel

HCL TECHNOLOGIES LTD. PROVIDES THIS PUBLICATION "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Some jurisdictions do not allow disclaimer of express or implied warranties in certain transactions, therefore, this statement may not apply to you.

This information could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein; these changes will be incorporated in new editions of the publication. HCL may make improvements and/or changes in the product(s) and/or the program(s) described in this publication at any time without notice.

Any references in this information to non-HCL websites are provided for convenience only and do not in any manner serve as an endorsement of those websites. The materials at those websites are not part of the materials for this HCL product and use of those websites is at your own risk.

HCL may use or distribute any of the information you provide in any way it believes appropriate without incurring any obligation to you.

Licensees of this program who wish to have information about it for the purpose of enabling: (i) the exchange of information between independently created programs and other programs (including this one) and (ii) the mutual use of the information which has been exchanged, should contact:

HCL

330 Potrero Ave.

Sunnyvale, CA 94085

USA

Attention: Office of the General Counsel

Such information may be available, subject to appropriate terms and conditions, including in some cases, payment of a fee.

The licensed program described in this document and all licensed material available for it are provided by HCL under terms of the HCL Customer Agreement, HCL International Program License Agreement or any equivalent agreement between us.

The performance data discussed herein is presented as derived under specific operating conditions. Actual results may vary.

Information concerning non-HCL products was obtained from the suppliers of those products, their published announcements or other publicly available sources. HCL has not tested those products and cannot confirm the accuracy of performance, compatibility or any other claims related to non-HCL products. Questions on the capabilities of non-HCL products should be addressed to the suppliers of those products.

Statements regarding HCL's future direction or intent are subject to change or withdrawal without notice, and represent goals and objectives only.

This information contains examples of data and reports used in daily business operations. To illustrate them as completely as possible, the examples include the names of individuals, companies, brands, and products. All of these names are fictitious and any similarity to actual people or business enterprises is entirely coincidental.

COPYRIGHT LICENSE:

This information contains sample application programs in source language, which illustrate programming techniques on various operating platforms. You may copy, modify, and distribute these sample programs in any form without payment to HCL, for the purposes of developing, using, marketing or distributing application programs conforming to the application programming interface for the operating platform for which the sample programs are written. These examples have not been thoroughly tested under all conditions. HCL, therefore, cannot guarantee or imply reliability,

serviceability, or function of these programs. The sample programs are provided "AS IS," without warranty of any kind. HCL shall not be liable for any damages arising out of your use of the sample programs.

Each copy or any portion of these sample programs or any derivative work must include a copyright notice as follows:

© (your company name) (year).

Portions of this code are derived from HCL Ltd. Sample Programs.

Trademarks

HCL Technologies Ltd. and HCL Technologies Ltd. logo, and hcl.com are trademarks or registered trademarks of HCL Technologies Ltd., registered in many jurisdictions worldwide.

Adobe, the Adobe logo, PostScript, and the PostScript logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States, and/or other countries.

Java and all Java-based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates.

Microsoft, Windows, Windows NT, and the Windows logo are trademarks of Microsoft Corporation in the United States, other countries, or both.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds in the United States, other countries, or both.

UNIX is a registered trademark of The Open Group in the United States and other countries.

Other product and service names might be trademarks of HCL or other companies.

Terms and conditions for product documentation

Permissions for the use of these publications are granted subject to the following terms and conditions.

Applicability

These terms and conditions are in addition to any terms of use for the HCL website.

Personal use

You may reproduce these publications for your personal, noncommercial use provided that all proprietary notices are preserved. You may not distribute, display or make derivative work of these publications, or any portion thereof, without the express consent of HCL.

Commercial use

You may reproduce, distribute and display these publications solely within your enterprise provided that all proprietary notices are preserved. You may not make derivative works of these publications, or reproduce, distribute or display these publications or any portion thereof outside your enterprise, without the express consent of HCL.

Rights

Except as expressly granted in this permission, no other permissions, licenses or rights are granted, either express or implied, to the publications or any information, data, software or other intellectual property contained therein.

HCL reserves the right to withdraw the permissions granted herein whenever, in its discretion, the use of the publications is detrimental to its interest or, as determined by HCL, the above instructions are not being properly followed.

You may not download, export or re-export this information except in full compliance with all applicable laws and regulations, including all United States export laws and regulations.

HCL MAKES NO GUARANTEE ABOUT THE CONTENT OF THESE PUBLICATIONS. THE PUBLICATIONS ARE PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, NON-INFRINGEMENT, AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

索引

記号

接続コード

入力

11

接続状況

5

入力

10

非表示のアプリケーション

再表示

10

M

mac ターゲット

13

アクションメニュー

コントローラーヘファイルを送信

13

接続ユーザー

13

接続情報

13

転送フォルダー

13

セッション・メニュー

アクティブ・モード

13

モニター・モード

13

切断

13

ツールバー

15

トップ・メニュー・バー

13

ヘルプ

オンライン・ヘルプ

13

リモート・コントロール・ターゲット・メニュー

終了

13

詳細情報

13

開始

13

接続コードの入力

16

R

Remote Control

ターゲット

20

あ

アクション・メニュー

6

アプリケーション

再表示

9

非表示

9

アプリケーションの非表示

9, 9

こ

コマンド・ライン・インターフェース

11

し

システム情報

表示

7

システム情報の表示

7

せ

セッション・タイプの選択

5

セッション接続状況の表示

5

た

ターゲット

概要

3

機能

3

ターゲット・インターフェース		と	
4		トラブルシューティング	
アクション		20	
6		監査	
システム情報の表示		12	
7		ふ	
セッション・タイプ		ファイル転送領域	
5		非表示	
チャット領域の表示		5	
5		表示	
ファイル転送領域の表示		5	
5		ファイル転送領域の表示または非表示	
ヘルプ		5	
7		り	
接続状況		リモート・コントロール・セッション	
5		ブローカー経由	
ターゲットでのコマンド・ライン接続の処理		10, 11	
11		拒否	
ち		7	
チャット領域		受け入れ	
非表示		7	
5		切断	
表示		11	
5		リモート・コントロール・セッション・アクションの	
チャット領域の表示または非表示		受け入れ	
5		7	
つ		リモート・コントロール・セッション接続コード	
ツールバー		ブローカー経由	
コントローラーへファイルを送信		10, 11	
15			
セッション・モード			
15			
切断			
15			
接続コードの入力			
15			
接続ユーザー			
15			
接続情報			
15			
転送フォルダー			
15			